

錦林だより

臨時号

平成 27 年 3 月 9 日

京都市立錦林小学校

校長 田上 恭史

kinrin-s@edu.city.kyoto.jp

平成 26 年度後期学校評価結果のお知らせ

保護者の皆様にはお忙しい中、学校評価にご協力いただきありがとうございました。保護者の皆様からお寄せいただいたアンケートの数は、362で、児童数のおよそ72%にあたるものでした。

皆様からのご意見、また児童へのアンケート結果、教職員の自校評価をふまえ、継続していくべきところ、改善していくべきところを明らかにし、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

【アンケート方法】

前期同様、アンケートの項目を

- (1) 学校教育に関すること
- (2) 子どもの学校生活に関すること
- (3) 家庭や地域での生活に関すること
- (4) 読書・図書館関係に関すること
- (5) PTA活動に関すること

のグループに分け、それぞれの項目につき「重要度—実現度」を尋ねる形式にしました。この二つを相互に関連させたとき、重要度、実現度ともに高い項目は、比較的肯定的なご意見が多く、重要度が高く実現度が低い項目は本校の課題とみることができます。

【アンケート結果より】

～全項目は掲載できませんので、ご了承ください。～

◆「(1) 学校教育に関すること」の実現度について

2～6の項目に関しては前期と同様約90%の保護者の方から「よくできている」、「大体できている。」という評価をいただきました。

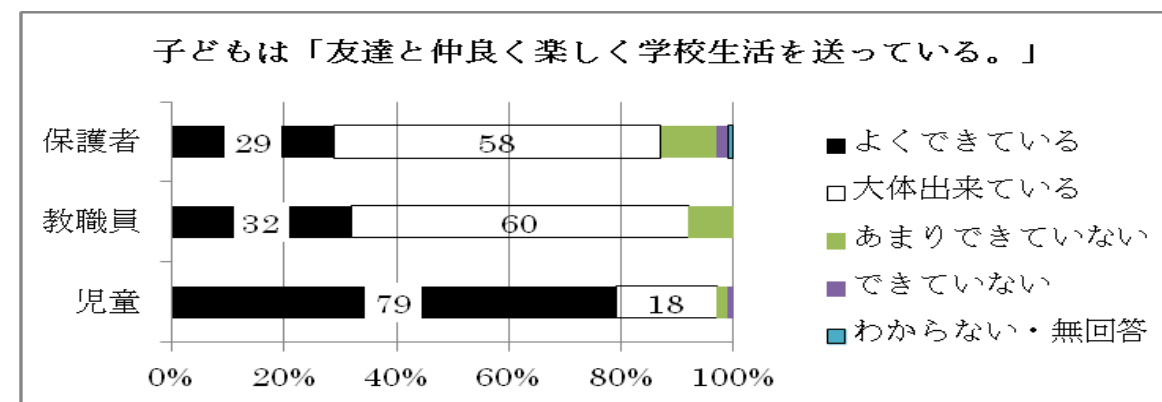
ホームページやお便りについては、子ども達の様子やPTA活動の内容がより詳しくお伝えできるようにしていきたいと思います。

1	学校教育目標を知っている。
2	学校は、教育内容をお便りやホームページで分かりやすく伝えている。
3	教職員は、子ども一人一人を大切にした教育を進めている。
4	教員は、基礎・基本の内容を分かりやすく指導している。
5	教職員は、保護者に対して丁寧に対応している。
6	学校は、常に快適な環境整備に努めている。

◆子どもたち同士の関わりについて

(2)－5 子どもは、友だちと仲良く楽しく学校生活を送っている

(児童：友だちと仲良く楽しく学校生活を送っている)

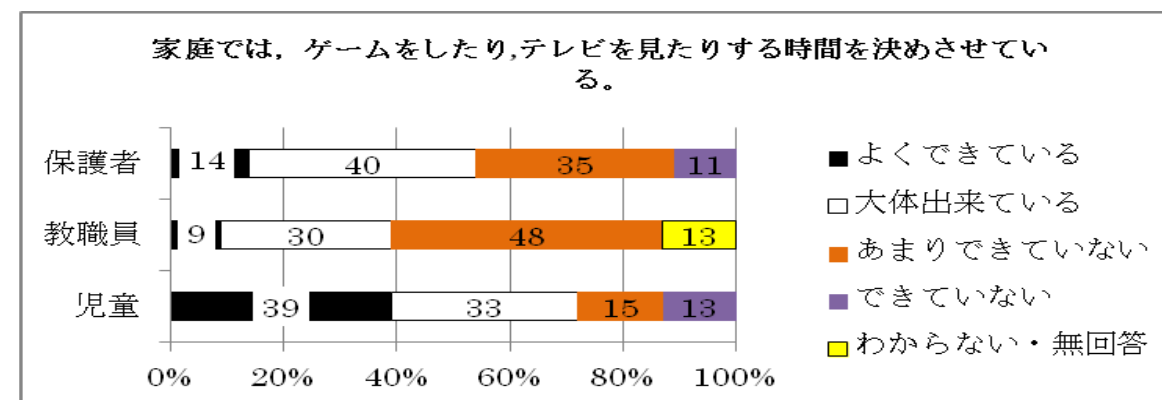


子どもたちにとって学校が楽しいところであって欲しいという願いから、保護者、教職員の重要度が高い項目です。割合は前期とほぼ同様です。そして、児童が、最も多く「よくできている」をつけた項目でもあります。保護者からは、「よくできている」「大体できている」を合わせて約87%の解答になり、前期より少し下がりました。友達と仲良く楽しく学校生活を送れるように、活動を充実させるとともに課題や問題点に対処していきたいと考えています。また、少数ではありますが、児童で「あまりできていない2%」「できていない1%」があることを受け止め、いじめ等につながるものがないよう、教育活動全体の取組を通して、指導をしていきたいと考えています。

◆実現度が低く、課題と考えられる項目について

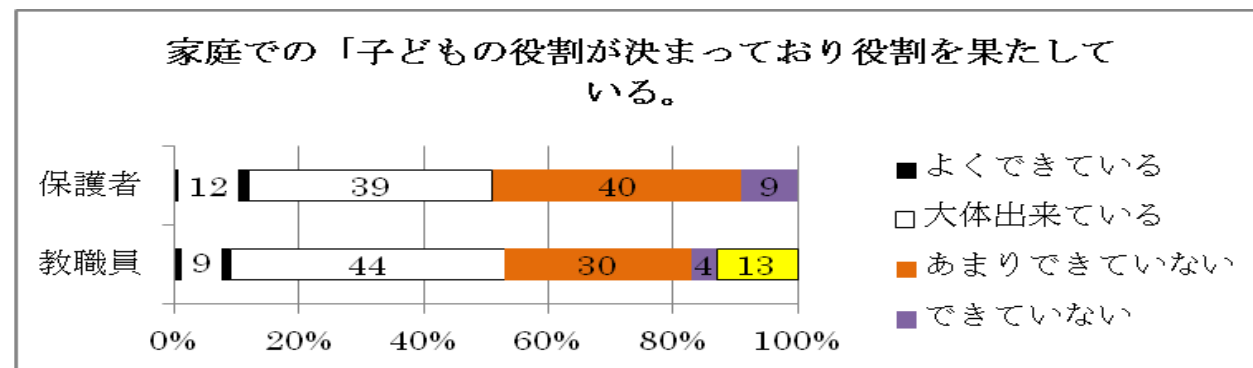
(3)－2 家では、ゲームをしたりテレビを見たりする時間を決めている

(児童：テレビを見るときやゲームをするときは時間を決めている)



子どもの意識と大人の意識の違いが大きく見られ、かつ保護者の方々のニーズが高い項目です。子どもたちの約28%、保護者の約46%が「あまりできていない」「できていない」と回答していました。ご家庭でも今一度、テレビやゲームについての時間を確認していただくとともに、その功罪についても話し合っただけたらと思います。

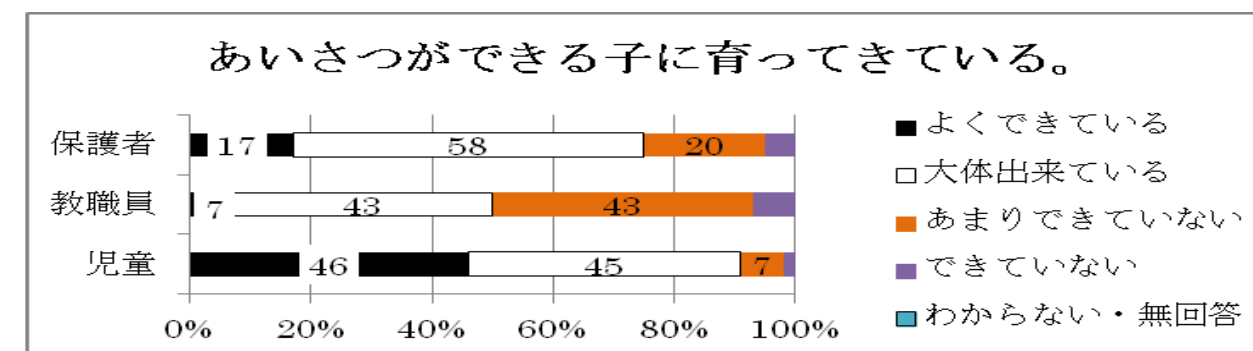
(3) - 3 家庭での子どもの役割が決まっており役割を果たしている



本校の子どもたちは、学習意欲が旺盛で学力的にも高い傾向にあります。経験不足による生活力の低さを感じることがあります。それは、家庭での「子どもの役割が決まっていて役割を果たしている」子の割合が少ない傾向にあるのも一因ではないかと考えられます。学校でも様々な場面で体験活動を取り入れ、子どもたちがたくさんの経験をして、自分で自信を持って判断したり、活動したりできるように努めていきたいと思っておりますので、ご家庭でも子どもの家族としての役割を決めて、その役割を果たせるよう話し合っていたいただけたらと思います。

◆児童、保護者、教職員で意識に差のある項目について

(2) - 1 あいさつができる子に育ってきている(児童：自分から進んであいさつをしている)

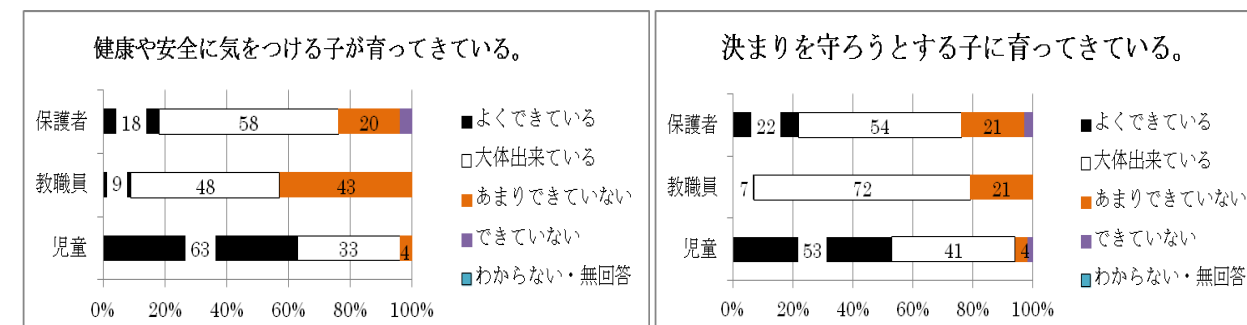


子どもたちは、挨拶が「よくできている」が46%ですが、保護者は17%、教職員7%と意識に大きな差が見られます。子どもたちの挨拶の様子を見ていますと、挨拶当番の時や、対外的にしなければいけない場面ではしっかりできていますが、「自分から進んで」というところに個人差がみられます。挨拶は人と人をつなぐ大切なものであり、元気に気持ち良い挨拶ができる子を目指して繰り返し指導していきたいと思っております。

◆京都市の「学校教育の重点」に関わる項目について

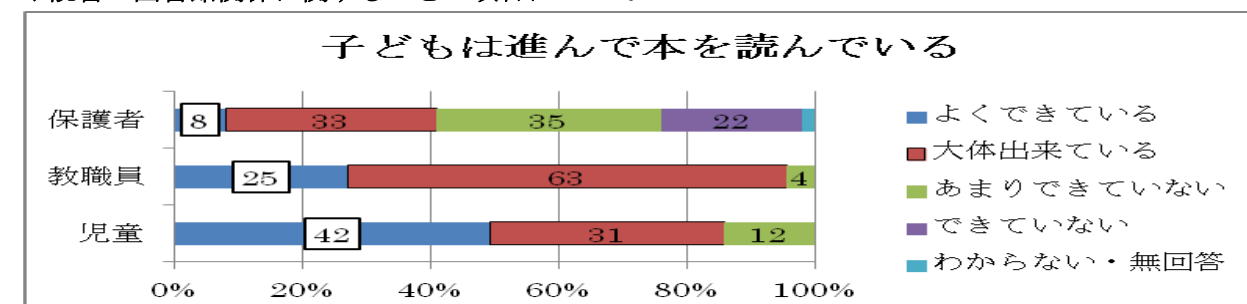
(2) - 3 健康や安全に気をつける子に育ってきている

(2) - 4 決まりを守ろうとする子に育ってきている



上記の項目は、今年度の京都市の学校教育の重点「規律ある生活習慣、ルールを守る態度の育成」と重なります。どちらも前期とほぼ同じ傾向です。また、どちらも大人と子どもの意識の差が見られ気にかかるところです。「健康や安全に気をつける」では、一回の不注意が大きな事故や怪我につながることもあります。「決まりを守ろうとする」の項目では、前期よりも「よくできている」「大体出来ている」と答えた児童が増加しました。しかし、学校では「大体」で満足せずに繰り返し指導し、指導しきるという姿勢でこれからも臨んでいきたいと思っております。ご家庭や地域でもいろいろな場面で子どもたちの規範意識を育むためにも、お声をかけてください。

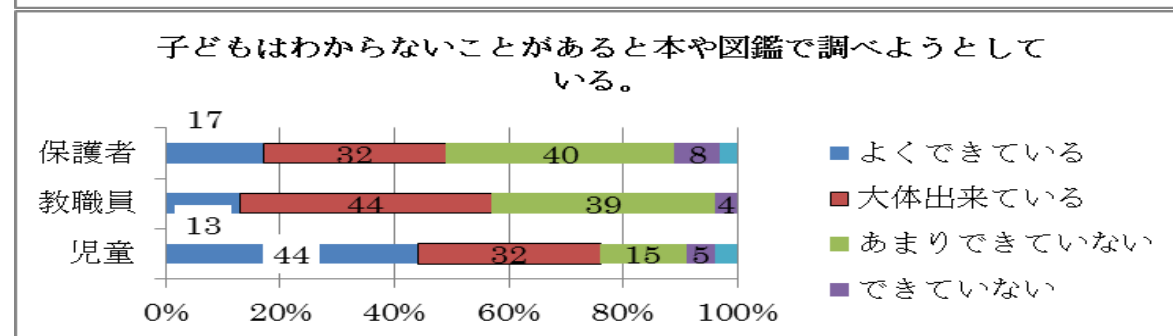
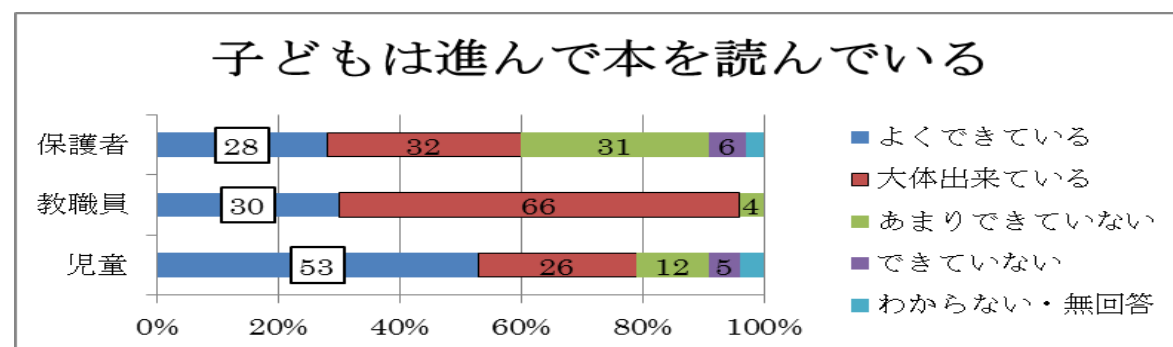
◆読書・図書館関係に関することの項目について



本校で昨年度から力を入れて取り組んでいる読書活動・図書館活用については、前期と比べると進んで本を読んでいるの項目で「よくできている」「大体出来ている」と答えている児童が「56%」から「73%」に増加してうれしく思います。今後も、学校図書館や地域の公共図書館を活用してたくさん本に触れていただきたい。

【お礼】 今回も多くのご意見をありがとうございました。全体を通して、行事や学習指導に対して温かいご意見をいただいたことは、教職員一同、大変励みになります。一方、個別に頂いたご意見についても、引き続き改善を図っていききたいと思います。今後も家庭・地域との連携を大切にしながら、錦林教育をよりよいものにしていきたいと考えております。より一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

◆読書・図書館関係にすることの項目について



あいさつ運動の様子

今回は、本校が主に取り組んでいる読書活動、図書館活用についてアンケート項目に含めました。「進んで本を読んでいる。」という項目には、「よくできている。」と「大体出来ている。」と答えた保護者の方が約60%、教職員が約85%、児童が約80%でした。割合は前期と同様です。今後も日常生活の中に読書が位置付けられ、子ども自身がその良さを感じられるような働きかけを保護者の方々と共に模索していければと思います。

また調べ学習につながる「子どもはわからないことがあると本や図鑑で調べようとしている。」の項目では、子どもと大人の意識に差がみられました。「よくできている」「大体でき